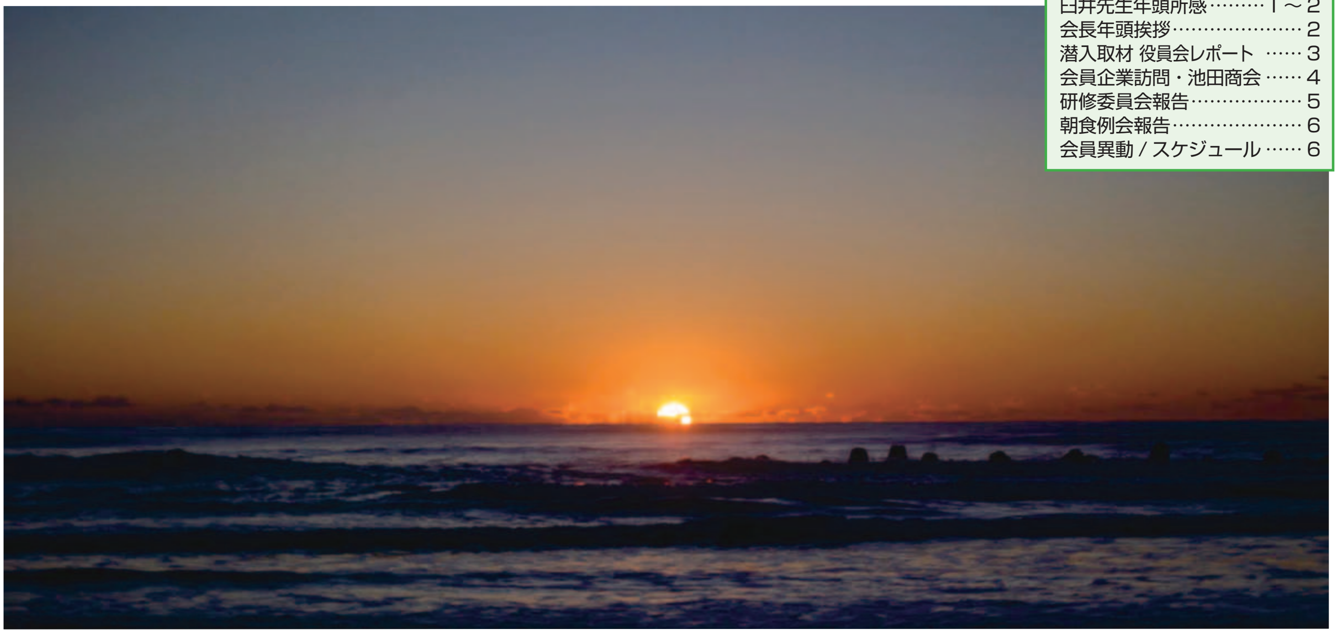
会報 つきぼし
2011.1.20 vol.76
発行：月星会　発行人/阿佐幸雄　編集人/産方恒好
〒262-0023 千葉市花見川区検見川町1-616 マリーンヒルズ103
TEL.043-273-9811　FAX.043-273-9812
http://tsukiboshi.net/

INDEX

臼井先生年頭所感………1～2
会長年頭挨拶……………………2
潜入取材 役員会レポート ……3
会員企業訪問・池田商会 ……4
研修委員会報告………………5
朝食例会報告……………………6
会員異動 / スケジュール ……6



# 年頭に当たって

前衆議院議員　**臼井日出男**

明けましておめでとう御座います。会員の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

## ―政権交代こそ活力回復の道―

昨年の我が国は強い閉塞感と沈滞の中にありました。極めて残念なのはこれらの現象が、永年続いた景気低迷や円高のためだけではなく、一昨年、国民が期待を込めて選択した民主政権が、大きく国民を裏切る事件や人事を行ったことによるものだからです。

まずスタートした政権の二トップ、鳩山総理と小沢幹事長の不祥事が躓きのはじめでした。自分の母親からの生前贈与の巨額寄付を、受け取る本人が知らない？という鳩山総理、また「総理経験者は後に影響力を残すべきではない。自分は引退する」と見栄を切った後からすぐ発言を訂正した事件、一方では小沢幹事長の地元の工事と関連した、これまた巨額の企業寄付の受理や手元に金はあるのに、４億円の不可解な銀行借り入れ、土地購入にまつわる事件や「政治倫理審査会への出席は、国会の意向に従う」との発言を後から否定する不明朗な態度等々で、国民の政治家に対する不信感を増大させたのです。

菅総理に代わってからも、日本をどのような国にしたいのかという根本の理念がないことが致命的で、「いままでは“仮免許”これからが本番！」の国民を利用して運転の練習をするかの如き発言に至っては驚きで言葉も出ません。“イラ菅”変じて“もうア菅”と揶揄されれも仕方ありません。衆議院選挙時に国民にマニュフェストで公約した多くの約束も“ほとんど未達成”となると、我が国活性化のためには、一刻も早く政権を交代すべき時だと判断せざるを得ません。

人の良い有権者もそろそろ怒りの声を挙げる時なのではないだろうか。まず貴方から行動して欲しい。

### ―若者よ社会正義の心を―

こうした折、中国漁船の我が国海上保安庁船への体当たり事件が発生した。折角逮捕した船長等を「中国との関係を考慮して…」との司法を超えた判断を「海上保安庁の一地方局長の判断」として、責任を回避して、本来自らが判断をすべき政府執行部は知らぬ振りをして、中国側に「日本組みやすし」との判断材料を与えたことは誠に遺憾なことです。しかしこのこと以外に私が強く感じたことがひとつありました。

それはテレビで船長逮捕に抗議して日の丸を焼く中国の若者の映像を見て、“どうして日本の若者は唯の一人も中国大使館に抗議の行動をする者がいないのか”という疑問でした。たしかに当時のブログには、こうした中国人の行為に対して若者の怒りの投稿が多くあったと聞いて、ほっとする気持ちはありますが、実際に行動する若者がいないことは事実です。中国国旗を焼けとは言わないが、不況続きの就職難の時代で、気持ちの余裕がないのか、こうした社会悪に対して怒ることはしなくなっているのか、いずれにしてもこの若者が将来の日本を支えていくと思うと、一抹の不安を感じざるを得ません。こうした折、平成24年から中学校校1．2年生に“武道”が正式科目として登場します。僅かな時間ではあるが、この学習の中で若者に、日本の伝統を振り返り、“よき日本人の心”と“礼節の心”を学んで欲しいと思います。

### ―日本人よ！誇りを取り戻せ―

いつも思うことだが、今の日本には次の三つが特に欠けていると考えています。第一は「日本人としての誇りに欠けていること」、第二に「他者への思いやりに欠けていること」、第三に「活力に欠けていること」です。いままで述べてきた「内需低迷による経済不況」も、「選挙時の美味しい約束で、国民を騙した民主党への怒り」も「中国人の狼藉に対する怒りに対する無反応」も、すべていまの日本人が、誇りと自信を失っていることに起因するように思う。

かつてテレビで「世界を変える百人の日本人」という番組がありました。その多くの日本人が単身世界に打って出て、自らの努力でその国の多くの人々の尊敬と感謝を勝ち取った人々の物語でした。私はその姿を見て、つくづくと「我々日本人は素晴らしい民族だ」と感動しました。社会の閉塞感も経済の停滞も、誰かがなんとかしてくれると思うのではなく、いま必要なのは、とにかく「魁より始める」ことだと信じます。

今年の年頭に当たって、皆さんの本年のそれぞれの目標に向かって、まず自らが力強く第一歩を進めることを提言します。

**会長年頭挨拶**

## いよいよ20周年を迎えます<br>力を合わせて成功させよう！

月星会会長　**阿 佐 幸 雄**

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

会長として大過なく、3回目の新年を迎えることができました。これもひとえに、会員皆さまのご協力があってのことと改めて御礼申し上げます。

政情については、うすい先生がお書きになっていらっしゃいますので、私としての年頭のご挨拶は月星会のことに限定して書かせて頂きます。

来年度は、新生月星会になってから20周年を迎えます。岩田会長の2年目に15周年を迎えたのですから、物理的にも当然来るべきものが来たと言うだけなのですが、やはり20年という数字には重さがあります。次年度は20周年の記念行事を念頭に置いて計画がなされると思いますし、会員の総力を挙げて成功させたいと思いますので、更なるご協力をお願い致します。

さて、今年7月に満70歳を迎える私は、新生月星会が発足した当時は50歳でした。山本相談役・千葉相談役・藤原相談役、岩田前会長等々、当時は40歳から50歳ぐらいの方がたくさんおりました。その方々がエンジンとなって月星会をリニューアルし、会則を始め運営規約をつくり、新生月星会として船出をしたことが思い出されます。

振り返って、現在の会勢を見ますと40～50歳代の方々の活躍する場が少ないためか、活気が少ないように思われます。次期の加藤会長には、会活動に若い力を結集して頂きたいと思いますし、20周年という節目の年は、若い人達が活躍する絶好のチャンスではないかと思います。

残り半年になりましたが、今後の役員選考について述べたいと思います。昨年6月の総会において、加藤隆さんが次期会長に決まり、副会長として私と共に会運営に携わるようになりました。会長になる前年度に副会長として運営に係わり始め、会長終了後は直前会長として会長をサポートするというもので、3年間に亘って会の運営に携わることになります。

先日行われた役員選考委員会において、会長だけでなく委員長も同様な考え方で選考するようしたい、との提案がありました。検討するに値する考え方だと思います。

事務局体制も確立しつつあり、多くの方が役員を経験する機会ができました。会員各位の力を併せて、今年も企業経営者として共に資質の向上を目指してまいりましょう。

＜潜入取材　役員会レポート＞

# 活動報告と意見交換を粛々と、かつ真剣に

月星会の役員は、今年度から原則１年任期となった。会員の役員就任チャンスが倍増したことになる。

会の運営は10数名の役員たちが司る。会の具体的な活動内容を決定し、実行状況を確認するのは月１回の役員会である。実際、役員会はどのように行われているのだろうか。会員諸氏に役員の仕事ぶりをご理解いただくために、会報編集スタッフが2度にわたって潜入取材を行った。

## 平成22年12月度、師走の役員会

平成22年最後の役員会は、12月１日水曜日の午後６時よりプラザ菜の花の会議室で行われた。師走に入った平日となれば皆、本業が多忙な時だ。しかし、数名の欠席があったものの12名の役員が集まり、宍倉幹事長の司会で定刻に開始された。

役員会の議題は、「報告事項」「審議事項」「協議事項」「今後の予定」の４つのパートに分かれている。

「報告事項」のパートでは、吉田事務局次長による11月度の会計報告に始まり、例会委員会、研修委員会、広報委員会と、各委員会の活動が粛々と報告された。

それぞれの報告は、開始前に各委員会から事前に提出された報告書に基づいて行われている。報告書は思い思いのスタイルで作成されているが内容は詳細でしっかりしている。口頭による報告も含めて、各委員長や副委員長の責任感の強さが伝わってくる。皆、真剣だ。

「審議事項」のパートでは、①入退会審査、②ミニ研修会、③12月定例会の３つの事項について話し合われた。

ちなみに、この日の入退会審査の対象は、㈱ダイトク代表取締役の中沢徳彦氏から出されていた退会申請についてだった。社長交代による引退が理由で、承認された。

「協議事項」のパートでは、まず栗原親睦委員長が中心になって、１月22日（土曜日）に開催される「新春の集い」の運営詳細について話し合われた。

お招きする来賓をどなたにするかに多くの時間が費やされたが、デリケートな問題も含んでいることから各役員から意見が出された。「月星会の性格から考えると…」といった真っ当な切り口からの意見が大半で、皆、月星会を大事に考えていることが窺えた。

同パートでは、次年度の役員選考についても多少の時間を取って真摯に意見交換がなされた。改選は半年後だが、１年任期になったこともあり、早めの調整が必要のようだ。このほか、今後の予定などを確認し、午後７時過ぎに終了した。

役員会が終わると、同じプラザ菜の花の中にある食事処に場所を移して役員会の忘年会。ここでも、時に真面目な討議がなされたが、全体としては和やかな談笑の場であった。ちなみに、この忘年会の費用は割り勘である。

## 平成23年１月度、新年の役員会

新年明けてまだお屠蘇気分も抜けない正月の５日、平成23年初めての役員会が開かれた。会場は今回も、恒例となっているプラザ菜の花の会議室である。

午後６時15分、２、３名未到着者がいるものの定刻に始まった。今回の司会は、宍倉幹事長が所用で遅れるとの連絡が事前に入っていたため阿佐会長自ら行った。

議題は前月同様、「報告事項」「審議事項」「協議事項」「今後の予定」の４つのパートに分けられ、粛々と進められた。

「報告事項」のパートでは、前年12月４日に開催された陶芸教室について片野副委員長作成の報告書に基づいて小野委員長が報告した。場所は陶芸家の神谷先生宅、参加者は11名で、神谷先生の指導のもと小鉢、皿、花瓶など思い思いの器を実際に製作していった。

報告の途中で当日の写真も回覧されたが、皆、楽しそうに、しかし真剣に取り組んでいる様子が窺えた。立派に出来上がった各々の作品写真もきれいに写っており、あちこちから感嘆の声が上がっていた。このような味のある研修を行えるのも月星会ならではと言えるのかもしれない。

「審議事項」のパートでは、前月の「協議事項」で話し合われた「新春の集い」の運営について、栗原委員長から報告があり、報告内容に基づいて質疑応答がなされた。

この時点ですでに40名以上の参加が確定していたが、役員総出で声かけを行うことによってさらに参加人数を増やすことなどを確認し合った。

今年度は“望年会”の開催がなく、新春の集いに集約されたため運営責任を担う親睦委員会のメンバーがより充実した行事にしようと努力していることが感じられ、頭が下がる思いがした。

このパートでは、同じく前月の「協議事項」でも触れた新年度の役員選考についても議題に上ったが、詳細は１月18日に行われる役員選考委員会で検討することになった。総会が行われる６月の２、３カ月前には、新役員の候補者が絞られる予定だ。

このあと、各委員会などから今後の予定が報告され、午後７時15分に加藤副会長による閉会の挨拶があり、本年最初の役員会は終了した。

毎回１時間ほどを費やす役員会であるが、各役員の真摯な参加姿勢が強く印象に残った。　　　（取材／奥平＆内藤）

＜会員企業訪問＞

# 第3回　株式会社 池田商会

## 人生を楽しみつつ、ネジ一筋に40年

### 人とのつながりが築いた無理なき企業成長

### “楽しく平和に” 営む事業

〈人もの全てを愛し　楽しく平和な人生〉

㈱池田商会本社２階にある社長室のドアを開けると、額に飾られたこの書がいきなり目に入る。

「これは私が書いたもので、私の信条です」

案内してくれた同社の社長・池田正勝は笑顔でこう話す。

衒うこともなければ、照れもない。自然な笑顔でコメントしてくれた。

池田の出身は、岐阜県大野郡朝日村（05年に高山市に編入）である。実家は農家で、男５人兄弟の五男に生まれた。郵便局も営んでいた実家は長男が継いでいる。

千葉に来たのは、現稲毛区の天台に移り住んでいた三男の兄を頼ってのことだった。

「五男だから出るしかなかったし、地元には職がなかったので兄のところでも行ってもみようかという感じで千葉までやって来たのです」

三男の結婚式に合わせて千葉に来たのだが、住むところがほかにあったわけでもないので、半ば強引に新婚宅に居候したのだと言う。昭和39年、20歳の時である。

見つけた就職先は自動車整備工場。ここで４年ほど働く中で「ネジ」に出会い、やがてネジの専門商社として独立起業を果たしたのである。

もっとも、独立には大志があったわけでもなく、「自分よりできる男が入ってきたので会社を辞めたくなった」とか。

創業は24歳の時で、ほぼ結婚と同時。現若葉区愛生町に構えた小さな二人の新居が創業の地であり、新妻と二人による個人事業としてネジの仕入販売を始めた。

「自動車整備をやっている時に、絶対的に必要なのに自動車部品商のルートでは手に入りづらいネジがあったのです。そのネジの入手ルートを探り出し、現金で仕入れて現金で売り始めた。これで事業の見通しが立ちました」

この時、池田の頭の中に“ネジの専門商社”という格好の良いイメージがあったわけではない。あったのは、「必要とするところに必要なものを速やかに届ける仕組みを見つければ、十分に事業になるだろう」という発想だった。

その特殊なネジは必要な会社が必要とする時に届かず困っていた現状があったのだ。池田は、「それなら俺が困っている現状を解決してやる」と思ったのであろう。

本人は、このことを熱く語ってはいない。こうした場面でも自然な笑顔で淡々と話している。取材中、この雰囲気は終始変わらなかった。気負いもなく、ごましたり隠したりすることもなく、あっけらかんとした口調で楽しげに語るのである。

### 8000種類のネジを多岐の業種に

池田のこの雰囲気こそ起業を成功させ、無理なく事業を育てていき、やがて “専門商社” の域にまで会社を成長させた原動力なのではあるまいか。

この雰囲気は、自然に人を惹き付ける。実際、40年に亘る池田商会の歴史を振り返ると、人とのつながりによって事業を拡大成長させた局面が多々ある。

たとえば、創業直後。辞めた自動車整備会社の社長が応援してくれ、その会社にも商品を納めた。「社員時代から社長にはずいぶん可愛がられた」と、池田はまた屈託のない笑顔を見せる。

従業員を何人か雇い始めた頃は、東京に本社があるアマチュア無線用のアンテナメーカーと出会い、継続的な取引の道が開けた。きっかけは、池田と一緒に仕事をしたいと、希望して池田商会に転職入社してきたある自動車部品メーカーの工場長だった。

大手仕入先の課長が家族の反対を押し切って転職してきたケースもある。安定した会社の管理職がわざわざ零細企業へと転職するのだから家族が反対するのも当然だが、当人は「池田商会でやってみたい」と入社してきたのである。彼の入社もまた、得意先を広げるきっかけになった。

従業員が池田と一緒に頑張る。取引先も池田のためにお客を紹介してくれる。池田商会の今日までの成長過程には、いつも人とのつながりが介在している。池田は言う。「営業開拓はお客さんなど人の紹介ばかりです。月星会の人たちにも結構助けていただきました」と。

池田は、月星会のチャーターメンバーだ。千葉県中小企業家同友会も発足時からのメンバーで、やはり得意先の拡大に役立った。もっとも、池田はそれを目的に異業種交流の会に入ったわけではない。「勉強になるから」というのが一番の理由で、営業開拓につながったのはあくまでも “結果的に” もしくは “ごく自然に” なのである。

趣味の分野になるが、千葉県早起き野球協会や千葉市早朝野球連盟（会長・臼井日出男）の活動にも池田は熱心だ。この活動も池田の人脈を広げている。

現在、池田商会の扱うネジの種類は8000アイテムを超え、販売先の業種は驚くほど多岐に亘っている。

ネジはあらゆるモノに使われている。様々な機械設備はもとより、住宅、電子機器、通信機器、文具や日用品……今、自分の身の回りのモノを見渡せば、必ずどこかにネジが使われているはずだ。しかも、形は多種多様である。

ニーズは無限大。従前から事業承継の約束をしている月星会会員の長男・徹も、専務としてすでに先頭に立って活躍している。徹もまた、早朝野球連盟の理事を務めるなど人とのつながりを大切にしている。次男・望も会社に入り、活躍中である。池田商会の行く末に暗さは微塵も見えない。

（取材・文責／奥平。文中の敬称は省略しました。次回は池田正勝社長の紹介で㈱みつわを予定しています）

## 第１回経営研修会　H22.11.19 ホテルグリーンタワー千葉

# 小さな　No. 1 企業

### 経営とは人作り。人で始まり、人で終わる。

11月19日ホテルグリーンタワー２階シンフォニアにて、今年度の経営研修会を開催した。

会員よりヤンキー先生のお話が聞きたいと要望が多く出ていたが、残念ながら先生多忙のため実現しなかった。

研修委員一同大いに悩み検討した結果、２３年連続で増収増益をあげている、製茶業の山田園の山田壽雄さんに、市場が低迷する製茶業で何故23年もの間増収増益があげられたのか、体験談を聞いてみたいとのことで、皆一致してお願いする事になった。

当日は41名の方が参加され、講演の後の懇親会にも34名の方が参加され、有意義な会となった。

## 講演要旨

23年間の増収、増益という言葉に注目が集まる中、講演は意外にも尖閣問題から始まった。

今の日本はまずい状態。政治が国益でなく、内向き。そんな中、様々な外交問題が発生している。特に尖閣問題は発生のタイミングも悪い。また、TPPの問題。これも避けて通れない。国も企業もリーダーの決断、決定がタイムリーに行うのが重要である。流行り言葉となった 「勝ち組」「負け組」という言葉があるが、商売は 「勝ち」でなく、「価値」「Value」を高めて商売をする。国も「Value」を高めるのが重要。

ATM手数料収入で莫大な利益を得る 「セブン銀行」のような業態は30年前には考えられなかった。経済の変化の周期がどんどん短くなる中、過去と同じ事をしていてはだめ。「不況だ不況だ」という人は 「不況（布教）活動」をしている 「不況（卑怯）者」である。こういった時代はラテンのノリでいこう。こんな時こそ楽観的にくよくよ悩まない。経営とは人で始まり、人で終わる。

人を作る。人作り経営。

「人に任せる」事が一番。そして「任せる勇気」が人を育てる。

「人を幸せにする」

「人作りのために働き、幸せにするための仕事」

必要なのは成長していくこと。テクニックよりも考え方。目標を達成すること。そして、喜んでもらえる喜びを感じる従業員をつくる。お客様の喜びを自分の喜びとして初めて感動が生まれ、モノが売れる。商売はお客様ありき。いない商売は考えられないし、満足してもらうために全力を尽くさないといけない。そのためには、どうしたら

1 お客さまのためになれるか
2 お客様に喜んで頂けるか
3 お客様に感謝していただけるか
4 お客様に 「あなたの商品売ってください」と言って頂けるか
5 お客様がありがとうと言われるか
6 お客様からありがとうと沢山言って頂けるか
7 お客様がもう一度買いたいといって頂けるか

という７点が大事。

仕入れれば売れた、営業に行ったら売れた時代は終わった。

顧客満足の時代。顧客満足を作る経営。戦略は４つ

１ 誰に売るのか
２ 何を売るのか
３ どうやって売るのか
４ どうやって管理するのか

当たり前のことを当たり前にやる。

当たり前の次元をレベルアップする。

当たり前の事をライバル以上にやる。

これを継続し、習慣とする。

当たり前の事=100% (期待通り)。

99%の仕事は不満が生まれる。クレームの発生。当たり前の事が出来ていない。

110%の事をさせて頂ければ、期待以上=満足。

100%ではダメ。期待以上で初めて満足。

120%の仕事をすると、「ここまでやってくれるのか!」という感動が生まれる。

自社の当たり前を120%にする。感動させることを当たり前に。しかしながら、感動して頂ける賞味期限は短い。今日やった事は次回同じ事をして喜んで頂いたとしても感動はしない。しかしそれをやり続ける事が大事で、リピーターを作り、長いお付き合いを作る事が出来る。

「そんな事は知っている」と言う人は多いが、「知っている」事と 「実践する」事は大きな差がある。ゴルフのスイングと同じ。

また、気づきは多く持てても、その気づきを実践 ・行動することで、成果、進歩が生まれるが、実際の所それくらい難しい事はない。

だが、これからはそれができないと勝ち残れない。

「経営とは人作り。人で始まり、人で終わる」

この言葉で始まり、この言葉で締めくくられた講師の講演は多岐に渡ったが、聞き覚えのある 「当たり前の事を当たり前に行う」という事をあらためて考えさせられる内容だった。

色々な経営の本に囲まれて頭でっかちになった自分を反省し、もう少しシンプルに、具体的に実践を重ねる事が大事なのかもしれない。そんな思いである。

（文責：木下英之）

# 委員会活動報告

## ミニ研修会（陶芸制作）

**平成22年12月4日㈯　陶芸家神谷紀雄氏自宅工房**

12月4日（土）10時よりミニ研修会として、陶芸家の神谷紀雄先生の工房に集まり、おのおの大きな粘土を頂き、参加者11名は粘土をこね大奮闘。

粘土が大きくすべてが大作となり、観光地の陶芸とは一味も二味も違う、本格的なものになりました。

型が整わずどうなるかと心配した作品も、神谷先生の指導で、まるで魔法のように素敵な作品となり、皆一様に驚嘆の声を発していました。

制作終了後に、神谷先生の作品が展示してあるギャラリーで一連の作品を鑑賞し、最後に出されたお茶を頂きましたが、井戸水で沸かしたお湯とのことで大変に美味でした。（研修委員長　小野成子）

## 朝食例会12月度報告

**平成22年12月11日㈯　ホテルグリーンタワー幕張**

新年明けましておめでとうございます。

今年も、昨年同様、実り多い朝食例会を目指し、委員会メンバー一同設営にあたりますので、皆様方もお誘い合わせの上、朝食例会にご参加ください。

昨年は、元ザンビア大使・中村義博氏による日米中を中心とした外交問題３回シリーズ、そして、住んでいながら意外と知らなかった千葉の歴史シリーズで千葉神社・山本栄宮司、劇団ルネッサンス主宰・大川義行氏とそれぞれ大好評を頂きました。

今年も社会・経済・政治など幅広い分野でご活躍の講師をお招きし、皆様方の企業人としての見識が深まるような内容を目指していきます。

ところで、今年は、統一地方選を４月に控えています。会員にも、私 臼井のほかに、茂手木直忠市議（稲毛区）、小川智之市議（若葉区）、川村博章市議（花見川区）、向後保雄市議（中央区）が立候補を予定されております。各会員のPRにも配慮をしていきたいと思います。

２月の朝食例会は、「企業防衛」についての講演を予定しております。

（例会委員長　臼井正一）

## 1・2・3月のスケジュール

| | | |
|---|---|---|
| 1/ 22㈯ | 新春の集い 賀詞交歓会 | 18:00開会　参加費 3,000円　会場：ホテルグリーンタワー千葉 |
| 2/ 2 ㈬ | 役 員 会 | 18:15開会　プラザ菜の花 |
| 2/12㈯ | 定例朝食会 | 7:30開会　参加費 2,000円　会場：ホテルグリーンタワー幕張 |
| 3/ 2 ㈬ | 役 員 会 | 18:15開会　プラザ菜の花 |
| 3/12㈯ | 定例朝食会 | 7:30開会　参加費 2,000円　会場：ホテルグリーンタワー幕張 |

## 会員異動　事務所移転

**再名生文江氏**　サロン・ド・樹樹が移転しました。
〒260-0854　千葉市中央区長洲1-22-2
マルセイビル１F　TEL/FAX.043-225-5992

**穂苅正治郎氏**　穂苅会計事務所に変更になりました。
〒260-0004　千葉市中央区東本町3-12
TEL.043-222-3005　FAX.043-225-3777

## 訃報

会員の山田善郎氏（㈱山田工務所取締役会長）には、1月18日享年63歳にてご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

皆さん、明けましておめでとうございます。すでに新年は20日以上過ぎましたが、公私のエンジンが本格的にフル稼働するのはこれからだと思います。寒さ厳しい折ですが、まずは健康に留意しながら、公私共に悔いなきエンジン全開といきたいですね。本年も「会報つきぼし」をよろしくお願いいたします。

増ページでお届けした新年号、いかがでしたか。臼井先生の「年頭所感」は、民主党政権への怒りから始まりました。辟易している小沢氏の政倫審出席云々の問題に限らず、「何をやってるんだ！ もういい加減にしてくれ」という気持ちは国民の間に広がっています。しかし、だからといって絶望するだけでは何も起こりません。臼井先生は私たちに、「まず貴方から行動して欲しい」「自らが力強く第一歩を」と訴えています。幸い私たちには、月星会員という強力な仲間がいます。斎藤佑樹投手にあやかるわけではありませんが、「仲間を持っている」というのは、それだけで大きな強みです。20周年を迎える月星会。今年も仲間と共に力強く行動していきましょう。（産方）